

ブーゲンハーゲン

# Bugenhagen

2018年度冬号

ルーテル学院大学図書館

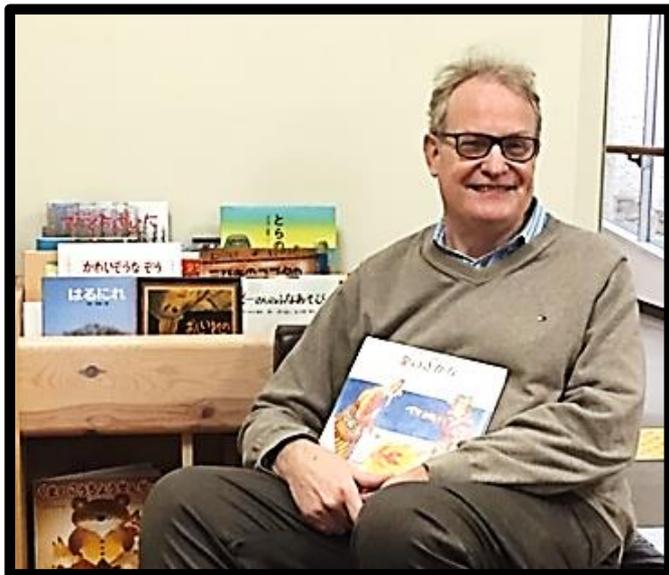
2019. 1. 10 発行

\*Bugenhagen というタイトルは？ ルターの協力者で、宗教改革を推進した人物から名付けました。

とサポ（学生図書館サポーター）がお気に入りの文学を紹介するリレー連載『とサポ文学館』。今回は、特別企画として英米文学に造詣の深いジャン・プレゲンス先生にお話を伺いました。（A）

—先生は文学が大好きということですが、どうして文学が好きになったのですか？

私はアメリカ生まれですが、父がフィリピンの神学校長として赴任することになり、5歳の時に一家で移住しました。6歳から中学まで住んだバギオという町は山の上で、当時テレビもなく、また一年の半分は雨期で、全く外で遊べない。本を読むしかなかったので、自然と本好きになりました。五人兄弟の末っ子の私は、上の兄妹たちが読んだ本を借りてひたすら読んだ。寝なさいと言われても、毛布の下で隠れて読んでいました。そんな経験皆さんにもあるでしょう？



新春特別企画：『とサポ文学館』別棟

## プレゲンス文学館へようこそ！



—幼い頃、影響を受けた作品は？

フィリピン行きの船の中で読んでいたのがイーニッド・ブライトンの『ノディ』シリーズ。イギリスの船だったので、彼女の本が沢山積まれていたんですね。そして、ご存知『クマのプーさん』。バギオは海拔 1500mで 100 エーカーの森にあるような松の木も生えていたんですよ！そして『不思議の国のアリス』。初めて作られた児童文学の一つです。映画『借りぐらしのアリエッティ』の原作『床下の小人たち』のシリーズは、うちが 1920 年代に建てられた古い家で、いかにも小人たちが住んでいるような家だったので、ワクワクしながら読みました。『ナルニア国物語』も大好きでした。



—それで文学が好きになり、大学では文学を専攻されたのですね？

はい、迷わず（笑）。専攻は 19 世紀の英米文学でした。『クリスマス・キャロル』を書いたディケンズ、ブロンテ姉妹などの時代です。また、小説ではなく自伝ですが、ヘンリー・アダムズの『教育』（注：アメリカの著名なノンフィクション。19 世紀から 20 世紀に移行する激動の世界について考察し、旧世代の教育批判を行っている）を読み、衝撃を受けました。この本から、人生全てが勉強なのだとして初めて知りました。大学で勉強することはほんの一部なのです。

ほかにも、人間と自然の関係性を描いたソローの『森の生活 ウォールデン』、現代の引きこもりを予見しているかのような、メルヴィルの『代書人バートルビー』に影響を受けました。『フランケンシュタイン』を書いたシェリーは天才！ 皆フランケンというと笑うけど…（笑）どうしようもない怪物を作り出してしまった人間、人間が技術をどうするかというテーマを扱った重要な作品です。21 世紀の今も、AI などの問題があるでしょう？

裏に続く

—英米文学は、やはり原書で読むのがいい  
でしょうか。ただ、ハードルが高い気がしま  
す。気軽に楽しめる方法がありますか？

やはり、原書で読むのが一番だと思いま  
すが、誰か詳しい人と一緒に読むのがお勧  
めですね。文化や時代背景、聖書の知識な  
どを解説してもらえると理解が深まりま  
す。読書会、授業、サークルなど、グルー  
プで読んでみてはどうでしょう？

—最後に、改めて文学の魅力について語ってください。

文学なしで世界・社会・人間を理解できるで  
しょうか？ できないでしょう。文学は百年前の世界にも、男女どちらの立場  
にも立つことができます。人生に入ってくるのです。その世界  
に入り、頭を使い、語彙を使う。読むというのはそのようなこ  
となのです。

なんだか話していたら、本を読みたくなくなりました！ 文  
学の話、本当に好きです。ぜひ、これからもお話ししましょう！



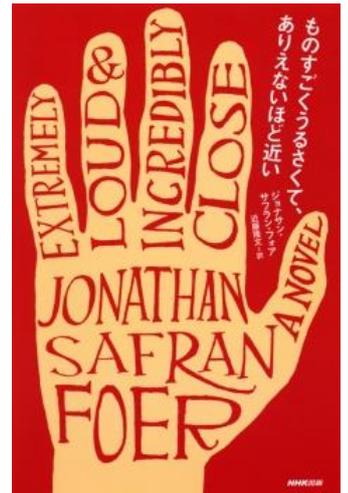
## 連載・とサポ文学館 第四回

今回は4年生のYさんが担当し、主人公が大切なものを探しにいく、珠玉の物  
語を紹介してくれました。卒業を控えた皆さんは、ルーテルで過ごした日々で、  
きっと何か大切なものを見つけたことと思います。卒業しても図書館の利用はで  
きますので、是非これからも立ち寄ってくださいね。

### 『ものすごくうるさくて、ありえないほど近い』

ジョナサン・サフラン・フォア著 近藤隆文訳  
NHK出版 2011 (請求記号：933||F36)

※映像化されたDVDも所蔵しています。  
(請求記号：7||VD-1213)



ありえないほど努力した体験ってありますか？ 私は高校生のとき亡くなった父が買ってくれた腕時計を無くし  
たことがあります。無我夢中で探し、探し疲れたときに腕時計を身に付けていたことに気がつきました。

この本の主人公であるオリバーくんは大好きなお父さんを9.11同時多発テロで亡くしてしまいます。ある日、  
お父さんのクローゼットから「ブラック」と書かれた封筒に入った鍵を発見します。この鍵はなんだろう？ お父  
さんが自分に残していったメッセージかなにかに違いない。お父さんのことを知りたい、近付きたい一心でオリバ  
ーくんは鍵穴を探す冒険へ出発します。

**ありえないほど努力したんだ。これ以上どうやって努力したらいいかわかんない。**

本の中でのオリバーくんの台詞です。人と関わるのが苦手なオリバーくんは必死に鍵穴を求めてニューヨーク  
中を探検します。鍵穴は見つかるのでしょうか。大好きだったお父さんの死を受け入れることができるのでしょ  
うか。この本は写真や挿し絵、文字の色など工夫をこらしているのです。オリバーくんの冒険を疑似体験しやすく描か  
れています。  
(キリスト教学科4年 Y)



ルーテル学院大学図書館の公式 Twitter では職員、図書館サ  
ポーター（通称：とサポ）の学生が情報を発信しています。  
イベント情報や、図書館の「ちょっと気になる…」を解決で  
きるかも！？図書館をいつも利用している方も、まだあまり利  
用していない方もフォローしてみてください。

Twitter の  
QR コードは  
こちら⇒



編集後記：今回のプレゲンズ先生との  
対談であらためて先生の文学愛をひし  
ひしと感じました。またいつかお話  
をお聞きしたいです。インタビューの中  
で出てきた本は取り寄せ中です。準備  
ができましたらカウンター横の展示コ  
ーナーに並べてきます。ぜひご一読く  
ださい！

今年もブーゲンハーゲンをよろしく  
お願いいたします。(R)